



にじのはし幼稚園 園だより

平成27年 5月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 新井智子



探す 試す 楽しさ

園長 新井智子

新緑と吹く風がさわやかな季節になりました。

4月から1ヵ月、それぞれの学年が緊張や不安から少しずつ解き放たれ、本来の「その学年らしさ」を発揮しています。3歳児は、いろいろな場に出向いて探索し、感情をストレートにぶつけ喜んだり泣いたり怒ったりと、賑やかになりました。4歳児は、気に入った場所や遊びに友達を招き入れるものの、まだ長い時間は続かず、それぞれ同じ場で自分のペースで遊びを楽しんでいます。5歳児は、任された園の仕事や学級の役割など、自分たちでできることを探し、進んで取り組んでいます。少し要領よく動く術を身に付けて友達とてきぱきと当番活動をしたり、課題活動の合間に自分たちの遊びを楽しんだりするようになりました。本格的に園生活が動き出したことを実感する毎日です。

園庭のこいのぼりとともに端午の節句飾りが並ぶと、不思議なことに決まって見られる子どもの姿があります。鎧兜に手を合わせて拝んだり柏手をうったりする子がいるのです。また、何かお願いごとをする子もいます。きっと、古式ゆかしい甲冑に寺社をイメージしているのでしょう。今までの経験の中から自分が見聞きしてきたことを疑う余地なく再現している姿にほほえましくなります。この頃3歳児は、紙芝居が始まると必ず裏を覗き込み何が隠れているか探します。蛇口を石鹼で泡だらけにしてみたり、砂場の大きなシャベルを部屋に持ち込んでみたりもします。大人のはらはらする思いをよそに、3歳児にとって未知のものとの出会いは、好奇心に満ちたわくわくする遊びです。その遊びと教師の指導と友達の存在によって、していいこと、いけないことを学びながら、主体的なものにかかわり学んでいく意欲や態度を身に付けていくのです。また、4・5歳児はこれからきっと、虫を見付けたり生物の成長に関心を向けたり、発見や探求に夢中になることでしょう。砂場遊びでも砂や水での実験を繰り返し、さまざまな発見をし、友達と目を輝かせて試したり工夫したりすることでしょう。子どもたちにとって、出会うもの、かかわるものすべてが子どもの知的好奇心を揺さぶり、豊かな遊びや学びへといざなっていきます。「見つけた!」「なんだろう?」の子どもたちの声に耳を傾ける5月です。



園庭で遊ぶ 3歳児



砂場で実験 4歳児



海辺でお弁当 5歳児

